

Franks & Sea lion 工房の新製品情報

Franks & Sea lion 工房では従来模型化されなかったマイナーな蒸気、内燃機関車を順次 HO スケール(HO-9, HO-6.5)で開発して参ります。より小さな機関車を目指して、N,Z ナローも検討中です。今年発売済と予定のアイテムです。マイナーものの少量生産となりますので、価額は高くなってしまいますが、最高級品 FSKSレンジのFSKS1～5までを連続してお買い求めのお客様には、非常にユニークで素敵な HO-9 蒸気機関車をプレゼント致します！

1. 碌々商店のガソリン機関車(FSKS-1)

ロスト中心の、北海道で人知れず使われた機関車をHO-9で模型化しました。伝動機構にベベルを使用し、上周りの組み立ても極力簡単なものとし、殆どが売り切れてしまいましたが、未だ数セット御座居ます。又、完成も承っております。

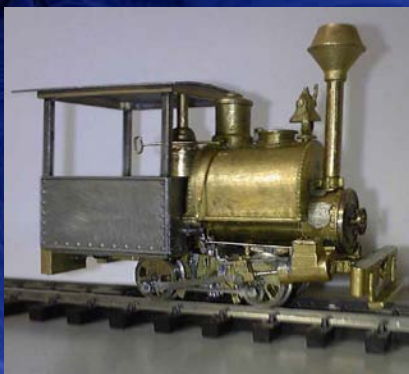


2. 庵原軌道のコッペル(FSKS-2)

恐らく世界で最小であろうコッペルの機関車を考え得る最高の精密さで模型化致しました。部品の構成ではほぼOナローに匹敵するものと考えています。勿論、コッペル弁可動、煙室ドア可動、フルキャブインテリア、ロスト輪芯と考えることは全て実施致しました。良好な走行を得るためスイス製の高級モーターを使用しています。原型と後期(推定)バージョンのキャブ2種類から選んで頂けます。今回の見本には間に合いませんでしたが、煙室戸も可動でまるでOネローの趣です。

3. ポーター8トン(FSKS-3)

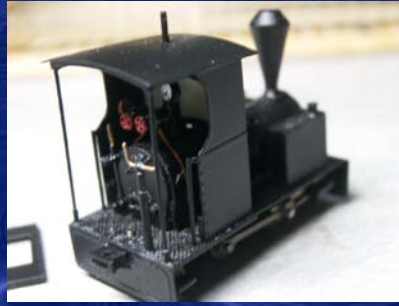
日本でこの8トンは動いて居たわけではないのですが、日本でも人気のポーター18トンをロスト中心に精密模型として、これもOナローに準ずる精密さで模型化しました。キャブインテリアも部品があまりに多数になるので、出来るだけ一体ものとし、組み立ての簡単化を図っています。これもスイス製の高級モーターを使い、ロッド駆動で静音走行を実現しております。多様なニーズに対応するため、キャブはオープン1種類、クローズド2種類(木製、鋼製)、煙突はスパークアレスタの形状をダイヤモンド型、サーキュラー型の2種類から選んで頂けるようにしました。



4. バグナル 逆サドルタンク “Excelsior” (FSKS-X)

この機関車も日本に輸入されたわけではないのですが、伝説のJ社が、リリースすべく設計に入っていたと言われ、その意志を継いで、模型化に踏み切りました。下回りの設計は完了し、上周りのディテール部品の製作を残すのみとなっております。

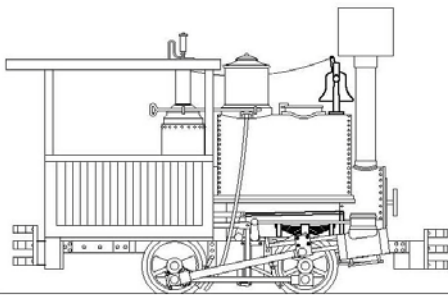
H0-6.5/H0-9のお好みのバージョンを選んで頂けます。フルキャブインテリアでグレードは庵原コッペル、ポーターに引けを取りません。



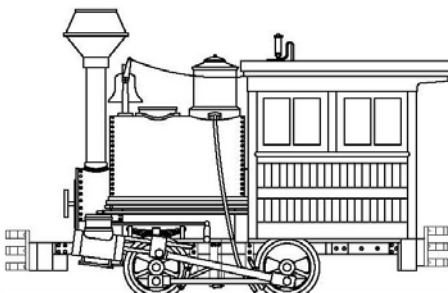
5. 森の内燃機関車戦後型(FSKS-4)

ロスト中心でフルボンネットディテールでH0-9模型化しました。伝説のJ社の加藤5トンと同じような簡単さで組んで頂けるように設計致しました。なお、木製キャブの機関車も計画しております。今までのメジャーな内燃機関車の台枠刻印のTokyoに対して、関西のOsakaが印象的な機関車です。

And more in near future...新製品情報は Web sealionworks.hide-yoshi.net で配信しております。



Open Cab Version



Closed Cab Version

